

## 知識を身に付けながら他者及び自己への理解を深めるグループ・アプローチ

～適切な機会をとらえた道德教育の実践～

### 1 学校の状況

本校は、西三河にある工業科の伝統校である。専門学科は化学工業・テキスタイルデザイン・機械・土木・電気・情報技術の6学科があり、1学年8クラス(3年生のみ7クラス)、全学年で23クラスある工業高等学校としては大規模な学校である。生徒は卒業後そのほとんどが工業系の企業に就職をする。そのため学校の在り方も、「ものづくりはひとづくり」という言葉に象徴されるように、技術の修得とともに、就職に向けた「人間教育」という教育姿勢が基盤となっている。近年の不況下においても本校は伝統に裏打ちされて就職は好調であるため、受験生の人気は高く、生徒の質は年々向上している。生徒の雰囲気も、学科間でやや差はあるものの、全般的に落ち着いている。

### 2 実践した場面と時期

月	主な行事	活動の場面	ねらい	内容
5	修学旅行	1 ホームルーム活動(2年生)	人間関係づくり	「USJを楽しもう!」(本文参照)
7	夏休み	2 授業[地歴公民](3年生)	自他理解 価値観の形成	「何が非行なのか?」(本文参照)

### 3 実践

筆者は今年度は学級担任をしていないため、決まった学級に対して計画的・継続的な実践を行うことは困難である。そのため、今回の実践は筆者が関係をもつことができる学級に学校行事に関連した内容のグループ・アプローチを試みたものである。これらの実践はどれも単発的で継続性がないという難点がある。校内における現在の筆者の立場と本校の校内事情ではやむを得ない面があったので、グループ・アプローチの実践を通しての生徒の変容については、今後の課題としてもち続けたいと考えている。

#### (1) 活動1 「USJを楽しもう!」

ア 実施した学級集団の状況(2年生 男子38人,女子1人)

この学級でこの実践を計画したのは、筆者が本年度の修学旅行の引率教員の1人であり、この学級の“副担任”のような立場で2泊3日の旅行をとともにすることになったためである。この学級については1・2年ともに教科担任でもなく、学級の生徒とは全く面識がなかったため、担任とも話し合い、修学旅行前にホームルーム活動(以下LTと略記)1時間を使って「顔合わせ」をしておこうということになった。そこで、単に教員からの一方的な話では彼らにとってもあまり意味があるとも思えないので、この機会を利用して、修学旅行が有意義に感じられるような活動をさせてみたいと考え、担任の了解を得てグループ・アプローチを行うことにした。このような実態から、研究の趣旨からすれば本来はクラスの基盤づくりから始める方がよいであろうが、ここでは担任の普段の学級経営を前

提としての実践となった。

この学級は、明るく素直かつ元気のいい生徒が多く反応は極めてよいが、反面ケジメなく騒いで收拾がつかなくなることもある。また、単科であるため3年間同じメンバーであることから、互いに大変気安く、仲間意識も強いが、一方では遠慮がなく、無神経で他人を傷つけるような発言もまま見られる。学級内は自然にいくつかの個性の違うグループに分かれてはいるが、グループ同士が反目したり、牽制したりすることは少ないようである。担任の人間性と指導力により、やや“荒さ”はあるものの、全体としては統制のとれた“楽しい”“活気のある”雰囲気のある学級となっている。

#### イ ねらい

- ・ エクササイズを通じて、自己主張と傾聴を行いつつ議論を行うことによって、自己理解及び他者理解の促進し、修学旅行行動班の緊密な人間関係づくり（信頼関係 [ リレーション ] 作り）を行う。
- ・ 修学旅行に向け学級の雰囲気を盛り上げつつ、自由行動時間を有意義に活用するための事前準備をする。

#### ウ 内容

- ・ 指導者によるインストラクションでの説明を聞く。
- ・ 各グループで話し合い、各班がそれぞれのコンセプトに基づいた独自の修学旅行での「USJ」(修学旅行では、「ユニバーサルスタジオジャパン (USJ)」)での自由行動が、2日目の午後に6時間にわたって設定されている)における行動予定(アトラクションの回る順番と予定時刻)を立てる。
- ・ 話し合いでは、各自がもつ資料を示し合って情報交換をしながら、班としての意思を決定して行く。

#### エ 参加者の様子と課題

エクササイズを始める際、「中学以来久しぶりだ」という声が上がっていたが、高等学校では初めて行う活動ではあっても、生徒には違和感はないようであった。話し合うグループは修学旅行の行動班であり、もともと仲の良い者同士で構成されていたため、どのグループも気兼ねなく話し合いをすすめている様子であった。お互いが主張し合って議論が活発に行われているグループもあれば、1人2人で勝手に決めてしまって他の者から不満が出ているグループ、決定できずに困っていたり、多数決で決めている場面も見られた。しかし、どこの班もおおむね前向きに話し合いがなされて、エクササイズを楽しんでいる様子がうかがえた。これは、このエクササイズが、生徒にとっては間近にせまった修学旅行、中でも最も楽しめる場所である「USJ」に関する内容であったことが、自然に盛り上がる要素であったことは間違いない。その意味では実にタイムリーな実践であったと思われる。だが、それ以上に、日頃の担任の生徒へのかかわりによりこの学級が屈託のない明るくまとまった雰囲気をもっていたので、自然にエクササイズも盛り上がったと強く感じられた。

「振り返り」における主な質問の結果と、生徒のエクササイズを通じて感じたことを以下に示す。

表1 「振り返り」の結果

今日のエクササイズは楽しかったですか。	1 (楽しくなかった)	2	3	4 (楽しかった)
	0%	20.5%	61.5%	18.0%
今日のエクササイズをやって修学旅行が楽しみになりましたか。	1 (楽しみにならない)	2	3	4 (楽しみになった)
	0%	15.3%	61.5%	23.2%

今日のエクササイズの中で、どのくらい自分の意見を言うことができましたか。	1 (できなかった)	2	3	4 (できた)
	5 . 1%	12 . 8%	56 . 4%	25 . 7%
今日のエクササイズの中で、どのくらい他人の意見を聞くことができましたか。	1 (できなかった)	2	3	4 (できた)
	10 . 2%	25 . 6%	56 . 4%	7 . 8%
あなたは今日のエクササイズを通して、どのくらい班に協力できましたか。	1 (協力できなかった)	2	3	4 (積極的に協力できた)
	7 . 7%	23 . 0%	51 . 2%	18 . 1%

表2 生徒がエクササイズを通して感じたこと

あなたが、今日のエクササイズを通じて感じたことは何ですか。

- ・早く修学旅行に行きたくなった。
- ・何も決めずにUSJに行っていたら、大変なことになっていたと思う。
- ・班のみんなで話し合っているいろんなことを決めるのは難しいなあと思った。でも楽しかった。
- ・友達関係が深まった。協力は大事だ。
- ・相手の意見を理解する難しさを感じた。
- ・意見を出すことは簡単だけど、まとめることは難しいと感じた。
- ・中学生以来、班を作ってこういう事をするのがなかったので、なつかしい感じがした。たまにはこういうこともいい。

ここでも、大半の生徒がこのエクササイズを楽しみつつ、意義を見出している様子が分かる。しかし、グループによっては意見をまとめきれなかったために、グループの生徒のほとんどが楽しいと感じることができなくなってしまったり、意義を見出せなくなってしまったりしたグループもあった。それでも学級全体としては盛り上がることができ、かつ、この実践の目的は十分に達成されたように思われる。修学旅行後に時間がとれなかったため事後の様子を確認することができなかったことは大変残念であるが、実際にUSJに行った後に数人の生徒に感想を聞いたところ、事前にアトラクションの内容を知っていて回る順番も決めていたので「とても助かった」ということであった。

## (2) 活動②「何が非行なのか？」

ア 実施した学級集団の状況(3年生 男子40人,女子0人)

この実践については、もともと1年生又は2年生を対象に行おうと考え準備していた。1・2年生の授業がないため、1・2年生の学級でLTを利用し実践することを考えていた。だが、本校の1年生の1学期は学級担任でさえLTを活用することが難しいほど時間がない。2年生もこれに大同小異である。そのため、1・2年生の担任にLTを使わせてもらうお願いをすることはできないと判断し、やむを得ず、筆者が授業を行っている3年生に対し、1学期の期末考査後の余裕のある時間を利用して実施してみることにした。

3年生のこの学科は2クラスあるが、ともに明るく素直かつ元気で、反応のよい学級である。とくに今回実施した学級の方は、積極的に発言するムードメーカーとまじめで学力の高い者とのバランスがよい。3年生の1学期は就職試験を控えて何事に対しても前向きに取り組もうというムードが高まっていることから、雰囲気さえ盛り上げれば活発な議論が期待された。ただし、この学科の生徒全般に言えることであるが、やや打算的な面があり、割り切ってしまうと極端に非協力的で不活発になったりもする。学級には全体としてまとまっている感じは少なく、いくつかのグループが個々バラバラ

に存在しているような印象を受ける。特にこの実践を行った日は朝から 30 を超えるような蒸し暑い日で、その中での実施であったため、当初はあまり積極的な姿勢は見られなかった。

#### イ ねらい

- ・ どんな行為が非行（犯罪）となり、処分の対象となるのかを各人が考え、さらにグループで意見交換することによって、非行（犯罪）に関する知識を身に付ける。
- ・ エクササイズを通じて、「道徳的に悪いこと」と「法的に悪いこと」が必ずしも一致しないことや、善悪の基準が人によって違うことなどを理解する。
- ・ 他の人と意見を交わすことで自己理解・他者理解を深め、感受性の促進を行う。

#### ウ 内容

- ・ 「非行」の定義を説明し、非行を犯してしまった場合には、どのように処遇されるかを説明する。
- ・ 与えられた項目の行動を、最初に個人で「悪くないこと」「悪いこと」「悪いことの中でも非行（犯罪）になること」の3つに分類する。
- ・ 次にグループで話し合い、グループでの分類を決定し、発表する。

#### エ 参加者の様子と課題

期末考査後の教科（地歴公民）の授業の余裕のある時を利用した成績に直接かわりがない内容の授業であったこと、1学期の最後の授業日で半日授業の日であったこと、そして、先にも述べたように、朝から 30 を超えるような蒸し暑い日であったことなどから、授業者が教室に入った時から、学級全体にやる気が感じられなかった。授業それ自体がうっとうしいというような雰囲気であった。しかし、エクササイズを始めていくと、「非行（犯罪）」のことは“常識”で知っているようで意外と知らないことであったり、グループで話し合う中で、「悪いことの中でも非行（犯罪）になること」はだいたい決定できるのだが、「悪くないこと」「悪いこと」については人によって意見が分かれたりして、議論に熱中して活発に意見が交わされる様子が見られるようになった。ただし、一部のグループではあからさまにやる気のない姿勢を取る者がいたために他の者が遠慮してしまい、話し合いたい素振りを見せつつもほとんど議論のすすまないグループもあった。また、グループ分けを席の近さで人数ごとに適当に分けたただけであったため、グループ内の人間関係が希薄であったせいも、自分のグループよりも親しい友人のいる他のグループの話し合いに首を突っ込む者もみられた。だが、次第に前向きに取り組んでエクササイズを楽しむ者が主流となり、最終的には学級全体としてはかなり盛り上がっていた。

「振り返り」における主な質問の結果と、生徒のエクササイズを通じて感じたことを以下に示す。

表3 「振り返り」の結果

今日の授業を通して、犯罪（非行）についての知識を得ることができましたか。	1（得ることができなかった）	2	3	4（得ることができた）
	0%	25.0%	50.0%	25.0%
グループの話し合いでは意見をだすことができましたか。	1（意見を出せなかった）	2	3	4（意見を出せた）
	12.5%	15.0%	35.0%	37.5%
グループの話し合いでは他人の意見を聞くことができましたか。	1（聞けなかった）	2	3	4（聞けた）
	7.5%	7.5%	47.5%	37.5%
グループの活動に参加することができましたか。	1（参加できなかった）	2	3	4（参加できた）
	7.5%	15.0%	35.0%	42.5%

グループの活動では、あなたがたのグループはまとまっていたか。	1 (まとまっていなかった)	2	3	4 (まとまっていた)
	5.0%	27.5%	37.5%	30.0%
この授業はあなたのためになりましたか。	1 (ためにならなかった)	2	3	4 (ためになった)
	0%	20.0%	55.0%	25.0%
この授業は楽しかったですか。	1 (楽しくなかった)	2	3	4 (楽しかった)
	2.5%	22.5%	47.5%	27.5%

表4 生徒がエクササイズを通して感じたこと

この授業の感想を書いてください。
・ こういう授業の方が生活する上で必要になるから、もっと多くやった方がいいと思った。
・ グループで話し合うといろいろな意見が出て楽しかった。人によって意見が全然違ってめるところもあるけど、やってよかったと思う。
・ 人によって価値観が違う。悪くないことと悪いことを区別するのはむずかしいなと思った。
・ 自分の思っていたこととみんなが全然違った。意外と軽そうなことでも犯罪になったりした。ちゃんと気を付けて行動したい。

この結果を見ても、生徒はこのエクササイズをかなり肯定的に捉えており、その「ねらい」とした「知識を身に付けること」「自己理解・他者理解を深めること」などもおおむね達成できたと考えてよい。

また、「振り返り」では今までにこのような「犯罪(非行)」に関する授業を受けたことがあるかどうかも尋ねてみた。その結果は、学級40人中、「(犯罪に関する授業を受けたことがある)」と答えた者が17人、「ない」と答えた者が23人であった。全般的な傾向として、「(犯罪に関する授業を受けたことがある)」と答えた者よりも、「ない」と答えた者の方が、この授業を「ためになった」「楽しかった」と答える率が高かった。これまで高等学校においてはこのような教科の内容を離れた“知識”はあまり教えることはなかったように思われる。だが、当然、高校生にもこうした知識を与え考えさせる機会をつくる必要がある。なぜならば、確かな知識をもつことで問題の大きさを客観的に考えられるようになり、自ら問題行動の危険性を予見した回避行動も取ることができるようになるからである。つまり、知識を与え考えさせる機会を与えることは、「犯罪(非行)」、それにつながる「問題行動」を未然に防ぐ、予防的な活動となるのである。さらに、どういう行動を選択するのか、自分の取る行動とその結果に対する「自分の責任」について考えさせることは開発的意味がある。また、こうした“知識”の学びの方法についても、この「振り返り」の結果にあるように生徒は肯定的な評価を与えている。参加し体験的に学ぶことのできるグループ・アプローチは生徒が納得できるものがあるようだ。つまりより有効な授業であると言える。

#### 4 効果と課題

筆者は本年度初めてこの研究に参加した。そのため、昨年度までの経緯に対する理解が不足していたし、実践の機会も今年度の1学期に限られてしまった。また、本年度は校内分掌においても担任する学級がないため、継続的なかかわりを前提とする実践を行うことが無理であった。このように自分が研究を行うには不利な条件が多かった。しかし、これらの実践を通じてグループ・アプローチを導入していくことの有効性は明確に実感することができた。それはまとめると次のようになる。

学校行事に合わせたのグループ・アプローチの有効性

**活動1**「USJを楽しもう！」で見られたように、学校行事にリンクさせて実施することにより、学級集団の人間関係を深め、その学校行事に向けて盛り上がり、行事の成功の条件となる雰囲気を作ることができる。このような学校行事の成功は、その後の学級の在り方にも良い影響を与える。また、**活動2**「何が非行なのか？」のように、問題が多発しそうな時期にあえて実施することで、生徒指導上の問題を予防する効果も期待できると感じた。

道德教育の一つの可能性

高等学校では「道德」の授業は設定されていない。しかし、当然高校生にも道德教育は必要であるし、道德教育については「学校の教育活動全体を通じて行う」(『高等学校学習指導要領 総則編』)ものとされている。**活動2**「何が非行なのか？」のように、テーマに基づいた知識を身に付けつつ、考える機会をもつことで、生徒の中で一層納得できるものがあるはずである。「喫煙防止」「非行防止」「いじめ防止」「人権教育」などをテーマとして扱うことで、生徒指導上の問題の発生を予防することもできる。その意味で「積極的生徒指導」となりうる。

高校生には“知的防衛”が許される方が取り組みやすい

グループ・アプローチのエクササイズの中にはゲーム性の強いものも多いが、高校生には子供じみて抵抗を感じるものも多いと思われる。その抵抗のため、エクササイズの本来の趣旨が損なわれ、自身の気付きもできなくなってしまう可能性もある。そうしたことから、高校生には「知識を身に付けるためのエクササイズ」という知的好奇心に働きかけるようなものであった方が取り組みやすいと考えられる。

このようなことを踏まえた上で、グループ・アプローチを計画的に配置し、継続的に実施していくことが必要である。今回の実践は、グループ・アプローチの有効性を確認したにすぎない。これがさらに有効に機能していくためには、エクササイズの進め方や「振り返り」の仕方などの実施上の技法的なことをはじめ、さまざまな問題を考えていかなければならない。そのためにもさらなる実践と研究を続ける必要を実感した。

《参考文献》

國分康孝監修 押切久遠著 『非行予防エクササイズ』(図書文化社、2001)